



令和4年11月4日

九州地方整備局

新たなメタバース（仮想世界）の活用手法を公開

～先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本で公開～

- 九州地方整備局では、土木研究所（茨城県つくば市）と連携して、ゲームエンジンを用いたインフラ整備の新たな設計手法（デジタルツイン・メタバース）の開発に取り組んでいます。
- 今回、最先端の3技術を「先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本」で公開します。

【主な展示内容】

- ①MR（複合現実）技術を用いた、令和2年7月豪雨の体験（全国初）
- ②実際の建設資材メーカ提供による3Dデータを用いたメタバースの作成、活用（全国初）
- ③「空間再現装置」を用いた、令和2年7月豪雨災害や都市モデルの体験
- ④「国内初のVR機能を活用したインフラカード」の配布

- ・日時 : 令和4年11月 9日（水）：10:00～17:00
10日（木） 10:00～16:00
- ・場所方法 : グランメッセ熊本
- ・参加費 : 入場無料（登録制）
- ・主催 : 先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本開催委員会
（構成：熊本県・熊本市・一般社団法人地域産業活性協会）

【取材に関して】

九州地方整備局 展示ブースにて、MR、メタバース、空間再現技術を体験・取材いただけます。

【場所】 下記URL 小間配置図「J07」

URL <https://www.s-kumamoto.jp/shutten/placement1.pdf>

【先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 HP】

URL <https://s-kumamoto.jp/>

- 【問い合わせ先】 電話（代表） 092-471-6331
- 九州地方整備局 企画部 インフラDX推進室 【展示①～③】
建設専門官 房前和朋（ふさまえ かずとも）（内線3317）
- 防災室 【展示④】
課長補佐 吉田知之（よしだ ともゆき）（内線2152）

新たなメタバース（仮想世界）の活用手法（初公開）

● MR（複合現実）技術を用いた令和2年7月豪雨の体験

MR（複合現実）とは、ARとVRを組み合わせたような技術であり、現実世界と仮想世界の座標空間を精緻に重ね合わせる事で、現実世界と仮想世界を同時に体験可能にします。

今回の展示では、令和2年7月豪雨の災害現場を展示会場に再現、体験いただけます。



令和2年7月豪雨被災現場を実物大で体験
MR（複合現実）なら測量も簡単にできます。



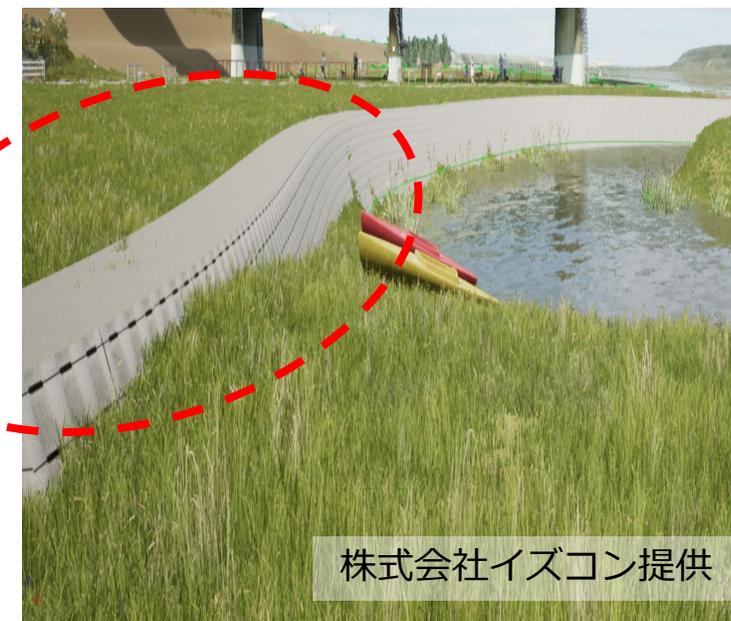
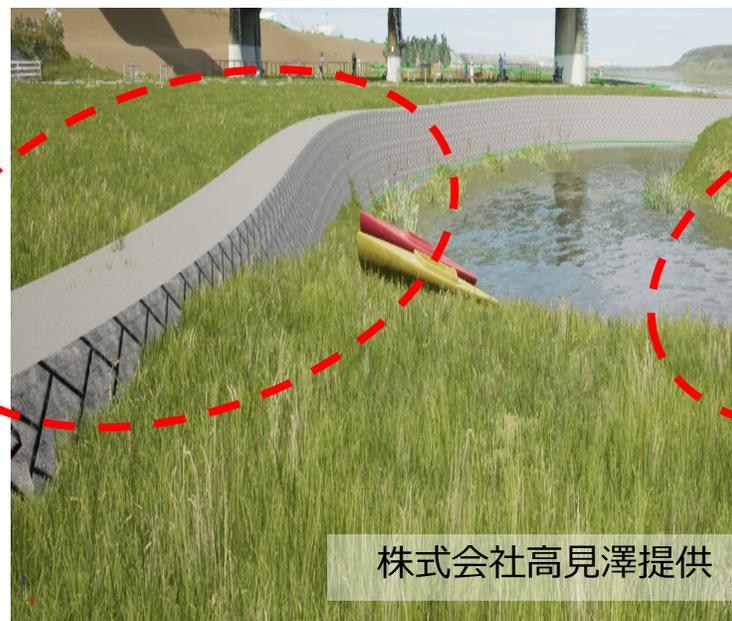
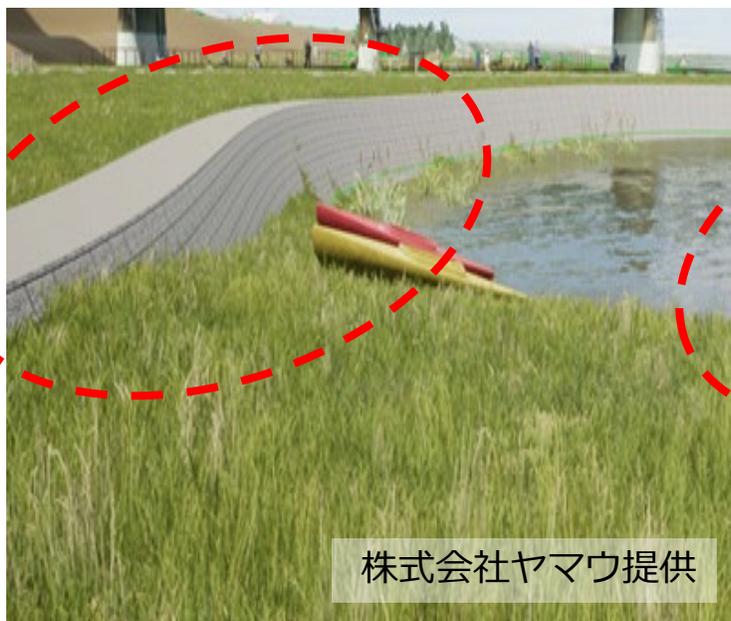
遠方の人（アバター）と同じ災害現場を見ながら
議論も可能。

新たなメタバース（仮想世界）の活用手法（初公開）

●実際の建設資材を用いたメタバースによる景観設計

九州地方整備局では、一般社団法人建設物価調査会と連携し、メタバース（仮想世界）で実際の建設資材を用いる試みを開始しました。

従来の景観設計では、デザインなどに法的な権利があるため、実際の製品を用いることが困難でした。メタバース作成用の3Dデータを一般社団法人建設物価調査会が各メーカーから3Dデータを提供いただき公開することで、簡単に「実際の製品」を用いた景観設計が可能となります。



様々な「護岸」を瞬時に切り替えが可能、仮想世界で景観設計ができます。

協力：一般財団法人建設物価調査会

新たなメタバース（仮想世界）の活用手法

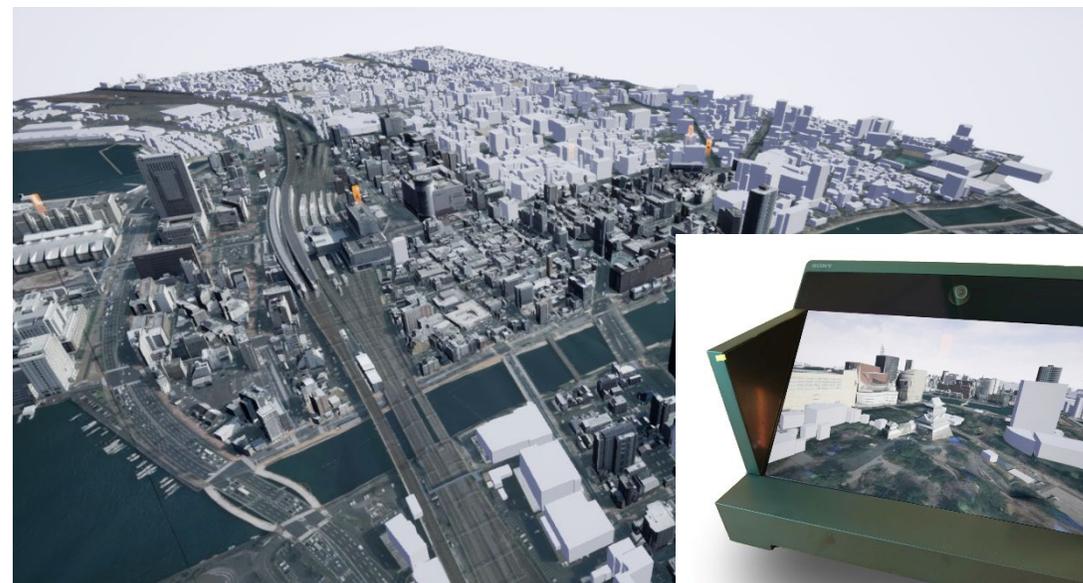
●空間再現技術

九州地方整備局では、空間再現ディスプレイ（Spatial Reality Display）を用いて、災害や都市モデル等の超高精細立体映像を作成しています。「まるで本当に存在している」ようなリアリティでその空間を再現することで、災害現場の状況確認や復旧対策の立案、様々な計画や住民への説明等にきわめて有効な技術です。

今回の展示では、令和2年7月豪雨災害現場、九州の街並みの超高精細立体映像を体験いただけます。



令和2年7月豪雨被災状況を「空間再現」



PLATEAU データを活用した九州の街並みの「空間再現」

災害対策車インフラカード 概要①

1. 災害対策車インフラカード

新カード（バーチャルツアー付き）は**6種類**。どの車両も九州各地の災害現場で活躍しています。通常、災害現場の立ち入り禁止区域内で活動することが多いため、地域の方に見て頂く機会が少ない状況でした。**災害復旧を陰で支える車両を知って頂くことで、より防災・減災活動に興味を持って頂けることを願っています。**

